



働く前に学ぶこと

校長 大森 富美雄

「お客様は神様です」…両親が駄菓子屋を営み、私自身も小さい頃から店番の手伝いをしてきたこともあって、この言葉はごく当たり前のこととして、私の意識の中にありました。

商売人にとってお客様は、代金を支払い商品を購入していただく大切な存在です。そして、二つ橋の生徒は、現在は社会生活の中で品物を購入する「お客様」の立場にあり、卒業後に働く場面では、逆の立場になります。

さて、この「お客様は神様です」という言葉について、まだ消費者の側にいる生徒のみなさんに、こんな場面について考えてほしいと思います。

休日に観光地に遊びに行くとします。とても暑い日です。遊び疲れてのどが渇いてきました。お腹も減っています。どこかにファストフード店がないかな？と、あたりを見回してもなかなかみつきません。ようやく店を見つけたときには「ああ、よかった！」と感じますよね？



卒業後に生徒の皆さんは、この場面のお店側の立場にいます。このときに、お客さんだった時代に感じた気持ちを忘れずに、のどが渇いて来店した人に「いらっしゃいませ！」と笑顔で接したら、その人はどんなに嬉しいか想像してみてください。

商売人だけでなく労働する人すべてに言えるのは、「働く」という行為そのものが世の中の役に立っているということです。たいせつな品物の流れを管理するロジスティクスの仕事、どの分野の業種にも欠かせない清掃や事務の仕事、…どの仕事も、いろいろな形で人々の生活を助けています。ファストフード店の店員とお客さんの関係は、「お客様＝神様」というような単純で一方向的なものではないのです。



いま、二つ橋の生徒たちは、働くための学習を学校でしていますが、こんな日常生活の一場面にも、将来につながる大切な学習があることに気付いてもらえればと思います。今年度も一年間、よろしくお祈りします。

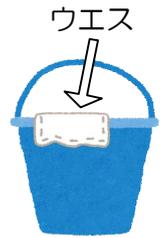




二つ橋スクールライフ

○1年生

4月の第一週は雨続きでしたが、入学式、地域散策の日は見事な晴天となりました。晴れやかな新入生のイメージそのまま、明るい声が学年フロアから聞こえてきます。何人かの生徒に、入学してから一ヶ月の感想を聞いてみると、「流通・サービスで、ウエスの使い方を教えてもらったことが一番よかった（ためになった）。」「環境・園芸で、長い時間作業をやり続けることができました（自信になった）。」「他の学校では学べないことが、たくさんあると思いました。」など、授業に対する感想を多く聞くことができました。通常授業も一通り経験し、学校生活もいよいよ本格的にスタートです。



○2年生

新しい環境になってやっと授業のリズムも出来上がりつつあります。その中で、5月20日からの北海道修学旅行の準備が行われています。クラス別行動の散策コース決めや、札幌・小樽での食事場所を決めるために話し合っています。

また、同時並行で6月より行われる現場実習の準備も行っています。夏休みまで、盛りだくさんの日々となりそうです。

○3年生

3年生では「障害者雇用」等の言葉を生徒自身が聞く事が多くなります。そのため、総合的な学習の時間では「障害」「障害者雇用」についてあらためて学習をしました。『自分の障害(苦手)と向き合う』『障害に劣等感をもたない、障害だから・・・とあきらめない』『自ら相談、支援を通して・・・最大限の自己実現を目指す』という内容で授業を展開しました。いよいよ現場実習です。みんなの健闘を期待しています。

○ 保健室から

新しい学校、クラスにも慣れてきた頃ではないでしょうか。この時期は、疲れが出て体や心の調子を崩しやすくなる時期です。ご飯をしっかりと食べ、よく眠り、体調を整えるようにしましょう。



○セクハラ窓口

横浜市では、各学校にセクシャルハラスメントに関する担当を置くこととなっています。今年度の校内相談窓口は、生徒指導 田本木綿子教諭です。どうぞお気軽にご相談ください。

TEL：（045）391-2131

なお、教育総合相談センターの一般教育相談も、セクハラ相談窓口として利用できます。

TEL：（045）671-3726～8

○「横浜市立二つ橋高等特別支援学校Webサイト」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/futatsubashikoto/>

